

(写真) 桂見配水池見学

Contents <目次>

- 水道施設見学バスツアーを行いました！ 1
- 令和6年度 水道事業会計決算 2
- 災害対策 耐震管路への更新 3
- 給水装置の維持管理 4
- 水道小話 蛇口の語源 4

水道施設見学バスツアーを行いました！

水道局では、新たなイベントとして「水道施設見学バスツアー」を企画しました。浄水場や配水池を巡り、施設の役割や維持管理の大切さを理解してもらうことを目的として開催しましたのでご紹介します。

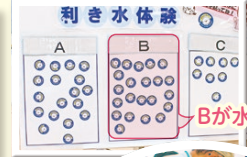
江山浄水場

鳥取市の水道の概要を聞いたり、**膜ろ過**の施設を見学したりしました。

◆**膜ろ過**：微細な穴を持つフィルターに水を通して不純物や微生物を物理的に除去する浄水方法

～利き水～

水道水、国産ミネラルウォーター、外国産ミネラルウォーターを、銘柄を伏せた状態で飲み比べる利き水を行いました。おいしいと思った水に投票してもらった結果、水道水と国産ミネラルウォーターが好評でした。



桂見配水池

配水池の上に登って配水池の大きさを体感するグループと、地上で**緊急遮断弁**の役割を学習するグループに分かれて見学しました。

◆**緊急遮断弁**：大きな揺れや配水池からの異常な量の水の流出を感知した際、水の流れを止める装置

◆**緩速ろ過**：ろ過砂の表面に微生物で形成される生物ろ過膜の働きを利用して、ゆっくりと水を浄化する方法

桑原浄水場

青谷地域の山間部にある浄水場では、**緩速ろ過**の施設を見学しました。

Citizen Reviews

異なる種類の浄水場の見学や、利き水体験、車内での解説と充実した内容で満足だった。

厳重な管理の元で安全な水が私達に届けられている事が良くわかりました。

利き水体験で水道水がミネラルウォーターよりも美味しいという結果になったのはおどろきでした。

広報担当職員の声

水道週間中の取り組みとして、初めてバスツアーを行いました。お子様からお年寄りまで幅広い方にイベントに参加していただきました。今回、市民の方からの疑問・質問など生の声を多く聞くことができました。今後の広報活動に生かしていきます。

問い合わせ先

経営企画課広報係 0857-53-7953

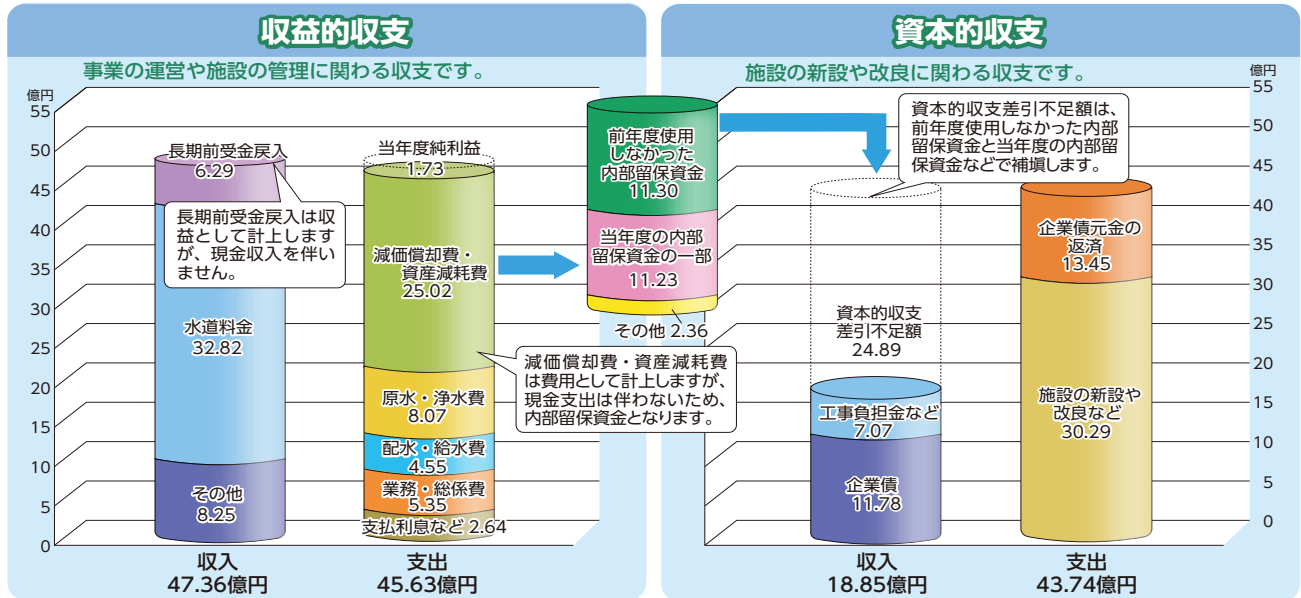
令和6年度 水道事業会計決算

令和6年度水道事業会計の決算は、令和7年9月定例市議会で認定されました。

事業の運営や施設の管理に関わる収益的収支は、1億7300万円の黒字を確保しました。施設の新設や改良に関わる資本的収支は、24億8900万円の不足額を内部留保資金などで補填し、事業を実施しました。

決算の内訳

水道事業の会計は、収益的収支と資本的収支に区分されます。



用語解説

◆**長期前受金戻入**：施設の新設や改良をする際に交付を受けた補助金等の減価償却費相当分を収益として計上したもの。◆**減価償却費**：施設の新設や改良に支払ったお金を、定められた耐用年数に応じて毎年費用化したもので、この費用は内部留保資金となり、企業債元金の返済と施設の新設や改良するための資金になります。◆**資産減耗費**：施設を廃棄する場合、減価償却後の残存価格を費用として計上したもの。◆**原水・浄水費**：原水（天然の水）を水道水にするための費用。◆**配水・給水費**：お客さまの所まで水道水を送るための費用。◆**業務・総係費**：水道メーターの計量、料金の徴収、窓口サービスなどの費用。◆**支払利息**：企業債（借入金）の利息。◆**企業債**：施設の新設や改良するための借入金。地方公営企業の場合、施設整備の資金は主に企業債で調達します。借入金は一定の期間（数年～数十年）で返済していきます。

— 実施した主な事業 —

管路の新設や改良 … 3 ページに関連記事

- 基幹管路である徳尾配水池系送水管の耐震化に継続して取り組みました。
- 基幹管路や重要な施設につながる管路が通る水管橋のうち、下味野水管橋の耐震補強工事を行いました。
- 河原町総合支所と面影小学校につながる管路の耐震化を行い、応急給水施設・拠点として整備しました。

統合した旧簡易水道地域の整備

- 用瀬地域で整備を進めていた配水施設が完成し、供用を開始しました。

その他の事業

- 叶水源にある自家発電機施設は設置から50年を経過し老朽化が著しいため、更新を行いました。
- 河原地域で整備を進めていた電気設備工事等が完成し、曳田配水池給水区域の一部を江山浄水場給水区域に編入しました。



（鉄筋コンクリート造2階建）
▲叶水源地自家発電機棟



▲叶水源地自家発電機設備
（ディーゼル発電機出力500kVA）

停電時においても、水道水の供給に必要な電力を確保するための設備です。洪水時の浸水対策として、主な設備を2階部分に設置しています。

◆**基幹管路**：地震などで破損した場合に断水の発生が広範囲に及ぶ重要な管路

本市では、地震等の災害に強い施設への更新や老朽化対策を計画的に進めています。近年の水需要の減少や物価高に伴う運営経費の増加により経営環境が厳しさを増していることから、持続可能な水道事業経営のための具体的施策を定めた「鳥取市水道事業長期経営構想（2025-2035）」に基づき健全経営に努めるとともに、適切な時期に料金水準について検討を行うこととしています。

問い合わせ先

総務課財務係 0857-53-7913
経営企画課経営係 0857-53-7952

災害対策 耐震管路への更新

令和6年能登半島地震では13万6000戸以上の断水が発生するなど、管路の耐震化は全国の水道事業体にとって喫緊の課題となっています。水道局では、地震などの災害時において断水の発生による市民生活への影響を最小限に抑えるため、基幹管路や、指定避難所などの施設につながる管路を中心に耐震化を進めています。

●耐震管とは

耐震管は、管と管との接合部分に伸縮機能、離脱防止機能を備えた水道管です。大きな地震などによる地盤沈下や亀裂にも、管路がしなることで順応します。

地震等で水道管が破損すると断水になるため、耐震管への更新が災害対策として重要になります。

水道局では、平成7年に発生した阪神・淡路大震災を契機に、耐震管を採用しています。



© 一般社団法人日本ダクタイル鉄管協会



© 一般社団法人日本ダクタイル鉄管協会

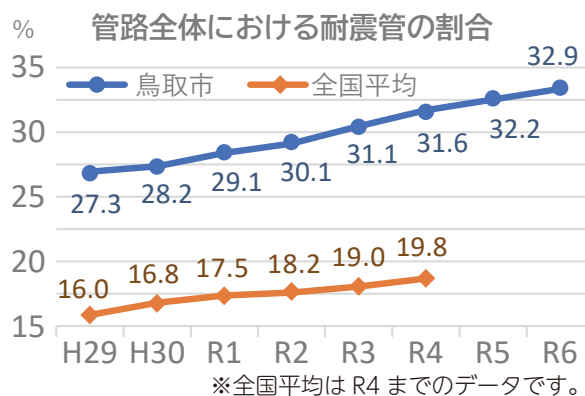
東日本大震災により道路が崩壊した場所でも、耐震管に被害はなく、給水し続けることができたんだよ。



●管路の耐震化

鳥取市内の水道管路延長1,770kmのうち225kmある基幹管路を耐震管へ優先的に更新しており、耐震管の割合は、令和6年度末で45.6%となっています。今年策定した長期経営構想において、構想最終年度となる令和17年度末には60%となるよう目標を定め、継続して耐震化を図ることとしています。また、災害時の避難所に指定されている学校や、救急指定病院につながる管路（応急給水管路）についても、耐震化を進めています。

基幹管路や応急給水管路のほか、老朽化が著しく進んでいる管路や漏水の頻度が多い管路を更新する際にも耐震管を使用しており、管路全体における耐震管の割合は、令和6年度末で32.9%（令和4年度末全国平均19.8%）となっています。



市内全域の
水道管の長さは
約**1,770km**
鳥取駅から函館駅までの
距離に相当します。

法定耐用年数(40年)
を超える水道管は
約**25%**
水道管の材質や布設場所の環境
によって実際に使用できる年数
(実使用年数)は異なります。

水道管1mの工事に
必要な費用は
約**10万円**
1km更新をする場合は
約1億円が必要です。

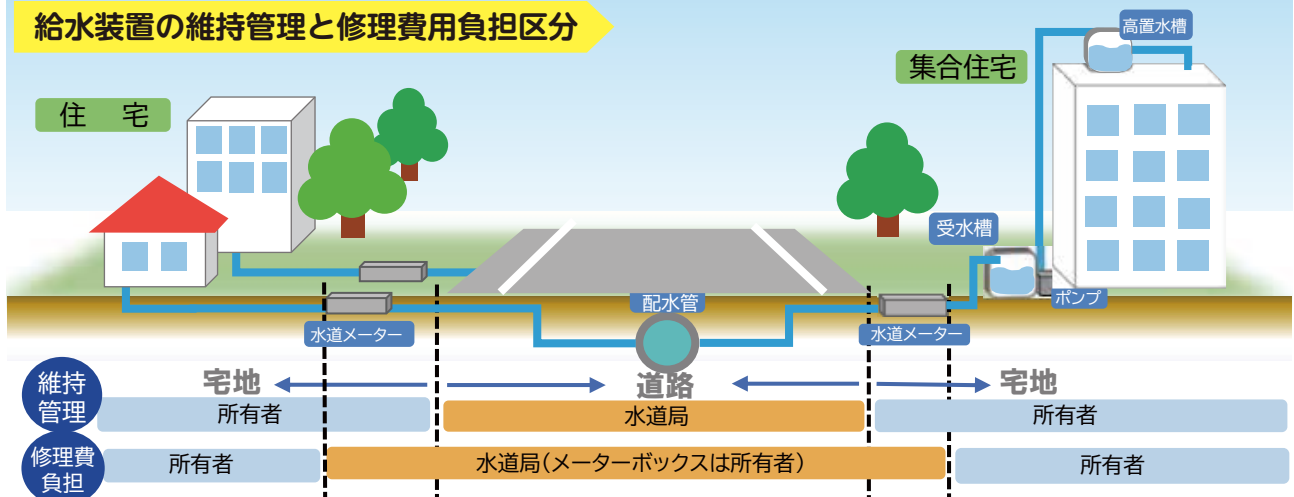
実使用年数を考慮した
今後11年間の更新費用は
約**150億円**
長期経営構想期間(令和7
～17年)に、約150kmの
更新を計画しています。

管路の耐震化には、多額の費用や時間がかかります。また、新しくした管路もいずれ更新時期を迎えるため、安定的に水道水を供給するためには、エンドレスに更新を続けていく必要があります。今後も管路の重要度や老朽化の度合いを考慮しながら、実使用年数に基づいた計画的な更新に取り組みます。

問い合わせ先 経営企画課経営係 0857-53-7952

給水装置の維持管理

給水装置の維持管理と修理費用負担区分



【給水装置とは】

道路等に埋設してある水道管(配水管)から分岐して、各家庭に引き込まれた水道管と、これに直結する器具(水道メーター、蛇口等)を給水装置といいます。

【維持管理】

宅地内の給水装置の維持管理は、所有者が行うこととなっています。
日ごろの点検や漏水確認等、適正な管理をお願いします。

【修繕費の負担】

水道メーターから道路側の給水装置の修理費は、メーターボックスを除き、水道局が負担します。水道メーターより宅地側の給水装置の修理費は所有者の負担となります。
※集合住宅の給水設備の修理(受水槽以降)は、管理会社等にご連絡ください。

水道管が破損したら

給水装置の修理(蛇口のパッキン交換等の軽微な修理を除く)は、指定給水装置工事業者に直接申し込むか、水道局にご相談ください。



破損で水が止まらない場合は応急措置としてメーターボックス内の止水栓を閉めてね。



修理業者一覧は
こちら▶



長期不在時・空き家の凍結破裂に注意



気温が氷点下になると、水道管が凍結しやすくなります。
長期不在時には、止水栓を閉めておくことで、万一の凍結破裂の際に漏水を抑えることができます。

問い合わせ先▶ 給水維持課管路維持係 0857-53-7933

水道小話

蛇口の語源

日本の近代水道が始まったのは、明治20(1887)年からです。当時イギリスから輸入した共用栓(住民が共同で使える水栓)の口には、ヨーロッパで水の守護神とされていた「ライオン」がかたどられていました。

その後、日本で共用栓を製作するときには、東アジアで水の守護神とされていた「龍」が用いられ、その共用栓の名称は、空想上の動物である龍のモデルとなった「蛇」から、「蛇体鉄柱式共用栓」と呼ばれました。

やがて各家庭に水道が普及すると、水道栓の名称として、「蛇口」と呼ばれるようになりました。



竜頭共用栓

© 水戸市上下水道局